

世田谷区

(世田谷区立岡本公園民家園)



旧長崎家住宅主屋

建築年代：江戸時代中期

規模：桁行 6.5 間・梁間 4.5 間

構造：食違い四間取り・寄棟造り・茅葺き

昭和52年に区の文化財第一号に指定され、昭和55年に岡本公園民家園に移築復原されました。

痕跡などから、建築年代は江戸時代中期(18世紀末期)で、当初の規模は桁行6間、梁間3間、間取りは広間型三間取りとされます。しかし移築に際しては、長く農家として使われていた食違い四間取りを復原し、江戸時代後期、世田谷にみられた典型的な農家の屋敷構えを甦らせました。



旧浦野家住宅土蔵

建築年代：江戸時代末期頃

規模：桁行 3 間・梁間 2.5 間

構造：切妻造り・瓦葺き

大きな特徴は、小屋の梁組に牛梁とよばれる曲り梁を巧みに用いているところ

です。屋根は、建築当時この地域の倉では珍しい瓦で葺かれています。

ご利用案内・アクセス

開 9:30～16:30 (月曜日休園・月曜日が祝日及び休日の場合は次の平日が休園) **料** なし

所 世田谷区岡本 2-19-1 **交** 小田急線「成城学園前」駅・東急線「二子玉川」駅からバス「世田谷総合高校」下車徒歩 5 分

問 世田谷区教育委員会 生涯学習課民家園係

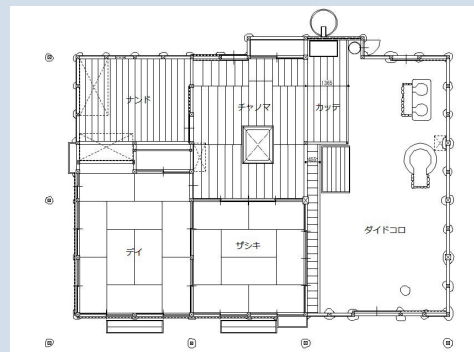
Tel.03-3417-5911 Fax.03-3417-5961

きゅうながさきけじゅうたくおもや
①旧長崎家住宅主屋
世田谷区指定有形文化財

きゅううらのけじゅうたくどぞう
②旧浦野家住宅土蔵
世田谷区指定有形民俗文化財

その1!

間取り：旧長崎家住宅主屋



復原に際しては、主屋が最も長く農家として機能を果たしていたと考えられる間取り(食違い四間取り)を基本としています。

この間取りは、6代目孫兵衛が村役人の百姓代になった文政10(1827)年頃の間取りと考えられています。ザシキとダイは接客に、カッテ、チャノマ、ナンドは家族の日常的な生活に使用していました。この頃に、百姓代の格にふさわしくする為、ダイには床の間がつけられ、土壁を平書院に造り替えたといわれています。

また、床の間横の二段戸棚の上段は、仏壇として使用されることが多く、当家でも解体時まで仏壇として使用されていました。

見どころポイント!

その2!

大黒柱と差鴨居



長方形の断面を持つ大黒柱や、土間・チャノマとザシキ境にある差鴨居は、広間型三間取りから食違い四間取りへ改築された時に入れられたと見られる、建物の変遷を知る特徴のひとつです。